

セルリー (ハウス冬春どり栽培)

- 1 対象地域 安房地域
 2 土 壌 第三系粘質土
 3 栽植密度 4,500株/10a
 4 目標収量 6,000kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
ハウス冬春 どり栽培												
施肥					●	●	●					
主要作業名			播 種	移 植	基 肥 植	追 肥	追 肥		収 穫			

6 施肥基準

(kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対 応
基 肥	10 月 上 旬	30	30	30	緩効性肥料または有機配合
追 肥	11 月 下 旬	10	10	10	有機配合または高度化成
	12 月 下 旬	10	10	10	有機配合または高度化成
計		50	50	50	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 土壌 pH を 6.0～6.5 に矯正する。
- (7) 基肥に被覆肥料のみを用いた場合には、全量基肥とし追肥が省略できる。

パセリ (ハウス栽培)

- 1 対象地域 安房地域
 2 土 壌 第三系粘質土
 3 栽植密度 7,400 株/10a
 4 目標収量 3,000kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
ハウス栽培												
施肥			●				●		●			
主要作業名		播種	間引き 基肥植	間引き		収穫始め	追肥		追肥			収穫終わり

6 施肥基準

(kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	8月中旬	30	25	30	緩効性肥料または有機質肥料
追肥	12月上旬	5	3	4	有機配合または高度化成 有機配合または高度化成
	2月上旬	5	3	4	
計		40	31	38	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 土壌 pH を 6.0～6.5 に矯正する。
- (7) 追肥は、葉色、生育状況により施肥量を加減する。

パセリ (トンネル栽培)

- 1 対象地域 東総地域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 8,300株/10a
 4 目標収量 2,500kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	5		6		7		8		9		10		11		12		1		2		3		4	
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
トンネル栽培																								
施肥	●								●						●				●					
主要作業名	基肥		播種				間引き		間引き		追肥		収穫始め		トンネル		追肥				追肥		収穫終わり	

6 施肥基準 (kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	5月下旬	30	25	30	緩効性肥料または有機質肥料
追肥	9月下旬	5	3	4	有機配合または高度化成
	12月上旬	5	3	4	有機配合または高度化成
	2月下旬	5	3	4	有機配合または高度化成
計		45	34	42	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 土壌 pH を 6.0～6.5 に矯正する。

パセリ (夏どり栽培)

- 1 対象地域 東総地域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 7,000 株/10a
 4 目標収量 2,200kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
夏どり栽培												
施肥			●				●					
主要作業名		播種	基 肥	ト 定 植			追 肥	ト ン ネ ル 除 去	収 穫 始 め			収 穫 終 わ り

6 施肥基準 (kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	12月上旬 (定植2週間前)	25	30	25	緩効性肥料
追肥	3月下旬	5	5	5	高度化成
計		30	35	30	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 土壌 pH を 6.0～6.5 に矯正する。
- (7) 夏季に葉が開いてきたら、液肥を葉面散布する。

ほうれんそう（夏秋どり栽培）

- 1 対象地域 県内全域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 80,000 本/10a
 4 目標収量 900kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
夏秋どり栽培	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
施肥					●		●					
主要作業名					基肥	播種	収土基 穫壤消 種肥毒	播種	収穫			

6 施肥基準

(kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対 応
基 肥	5 月 下 旬～ 7 月 下 旬 (播種 7 日前)	8	15	15	緩効性肥料
追 肥		—	—	—	
計		8	15	15	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する（32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照）。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する（14 ページ参照）。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する（63～78 ページ及び 401～404 ページ参照）。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する（20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照）。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する（37～40 ページ及び 450～459 ページ参照）。
- (6) 土壌 pH を 6.5～7.5 に矯正する。
- (7) 基肥はベッド部のみに施用する。

ほうれんそう（秋冬どり栽培）

- 1 対象地域 県内全域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 80,000 本/10a
 4 目標収量 1,800kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
秋冬どり栽培												
施肥	●		●									
主要作業名	基肥	播種	収穫	基肥	播種	トンネル	収穫					

6 施肥基準

(kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対 応
基肥	8 月下旬 (播種 7 日前)	20	20	20	緩効性肥料
追肥		—	—	—	
計		20	20	20	
基肥	10 月下旬 (播種 7 日前)	25	25	25	緩効性肥料
追肥		—	—	—	
計		25	25	25	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する（32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照）。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する（14 ページ参照）。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する（63～78 ページ及び 401～404 ページ参照）。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する（20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照）。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する（37～40 ページ及び 450～459 ページ参照）。
- (6) 土壌 pH を 6.5～7.5 に矯正する。
- (7) 基肥はベッド部のみに施用する。

ほうれんそう（春夏どり栽培）

- 1 対象地域 県内全域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 80,000 本/10a
 4 目標収量 1,100kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
春夏どり栽培	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
施肥	●				●							
主要作業名	基播 肥種			収 穫	土 壌 消 毒	基 播 種	収 穫					

6 施肥基準

(kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対 応
基 肥	1 月上旬～ 4 月下旬 (播種7日前)	8	15	15	緩効性肥料
追 肥		—	—	—	
計		8	15	15	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する（32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照）。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する（14 ページ参照）。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する（63～78 ページ及び 401～404 ページ参照）。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する（20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照）。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する（37～40 ページ及び 450～459 ページ参照）。
- (6) 土壌 pH を 6.5～7.5 に矯正する。
- (7) 基肥はベッド部のみに施用する。

こまつな (春播栽培・秋播栽培)

- 1 対象地域 県内全域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 80,000 株/10a
 4 目標収量 1,600kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
春播栽培	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
秋播栽培												
施肥				●					●			
主要作業名				基肥・播種	収穫				基肥・播種	収穫		

6 施肥基準

(kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	4月上旬	12	12	12	低度化成、有機質肥料
追肥		—	—	—	
計		12	12	12	
基肥	9月上旬	12	12	12	低度化成、有機質肥料
追肥		—	—	—	
計		12	12	12	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 土壌 pH を 6.0～6.5 に矯正する。
- (7) 夏期栽培では 2～3 割減肥する。

なばな (露地栽培)

- 1 対象地域 安房地域、上総地域
 2 土 壌 第三系粘質土
 3 栽植密度 4,800 本/10a
 4 目標収量 800 kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月 旬											
	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
露地栽培	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
施肥		●		●	●		●					
主要作業名		基肥	播種	間引き・除草	追肥・土寄せ	収穫始肥		追肥				

6 施肥基準

(kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対 応
基 肥	8 月 下 旬	15	20	14	高度化成、有機配合
追 肥	10 月 上 旬	5	3	4	高度化成
	11 月 下 旬	5	3	4	高度化成
	1 月 下 旬	5	3	4	高度化成
計		30	29	26	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 土壌 pH を 6.0～6.5 に矯正する。
- (7) 追肥は生育状況や葉色をみながら遅れないように施用する。

しゅんぎく (ハウス栽培)

- 1 対象地域 県内全域
 2 土 壌 火山灰土、第三系粘質土、河成壤質土
 3 栽植密度 25,000 本/10a
 4 目標収量 3,000 kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
ハウス栽培	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
施肥				●		●	●	●	●			
主要作業名			播種	基肥植		収穫始め	追肥・トンネル	追肥	追肥	追肥	追収穫終わり	

6 施肥基準

(kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	10月上旬	15	20	15	緩効性肥料
追肥	12月上旬	2	1	2	高度化成、液肥
	1月上旬	2	1	2	高度化成、液肥
	2月上旬	2	1	2	高度化成、液肥
	3月上旬	2	1	2	高度化成、液肥
計		23	24	23	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 土壌 pH を 6.0～6.5 に矯正する。
- (7) 追肥は、摘み取り収穫後に施用する。

しゅんぎく（トンネル栽培）

- 1 対象地域 県内全域
 2 土 壌 火山灰土、第三系粘質土、河成壤質土
 3 栽植密度 25,000 本/10a
 4 目標収量 2,500 kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
トンネル栽培	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
施肥			●			●		●				
主要作業名			基播 肥種	間 引き	間 引き	ト 収 穫 始 め	追 内 ト ン ネ ル 肥		追 肥	収 穫 終 わ り		

6 施肥基準 (kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対 応
基 肥	9 月 上 旬	20	25	20	高度化成
追 肥	12 月 上 旬	4	2	4	高度化成
	2 月 上 旬	4	2	4	高度化成
計		28	29	28	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する（32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照）。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する（14 ページ参照）。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する（63～78 ページ及び 401～404 ページ参照）。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する（20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照）。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する（37～40 ページ及び 450～459 ページ参照）。
- (6) 土壌 pH を 6.0～6.5 に矯正する。
- (7) 追肥は、摘み取り収穫後に施用する。

みつば (根みつば栽培)

- 1 対象地域 北総地域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 播種量 2L/10a
 4 目標収量 2,100kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
根みつば栽培												
施肥				●					●			
主要作業名	枯盛ト 葉整土 理ネル	収穫 始め		収基 穫終 わり肥	播 種				追 肥			

6 施肥基準 (kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	4月下旬	3	2	2	緩効性肥料、有機質肥料
追肥	9月中旬	2	2	2	低度化成、有機質肥料
計		5	4	4	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 基肥窒素の施用過多は、抽だい率を高めるので注意する。
- (7) 芽が出そろうまでは、乾燥防止のため敷きわらをするか灌水を行う。
- (8) 土壌 pH を 6.0～6.5 に矯正する。

みょうが (花みょうが栽培)

- 1 対象地域 上総地域
 2 土 壌 火山灰土、第三系粘質土
 3 栽植密度 11,000 本/10a (地下茎)
 4 目標収量 250～300 kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型		月旬											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
		上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
花みょうが 栽培	1年目	○ — ○ — 											
	2年目以降	— —											
施肥			●	●			● ●						
主要作業名	1年目		基植敷きわら 肥付け	敷きわら			追肥			収穫始め	収穫終わり		
	2年目以降			追肥・敷きわら			追肥・敷きわら(落葉) 茎間引き	収穫始め		収穫終わり			

6 施肥基準

(kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	2月上旬	5	14	5	単肥、高度化成、有機配合、緩効性肥料
追肥	1年目 6月上旬 (茎間引き後)	3	3	3	高度化成
1年目計		8	17	8	
追肥	2年目以降 3月中旬	8	15	8	高度化成
	6月上旬 (茎間引き後)	3	3	3	高度化成
2年目以降の年間計		11	18	11	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 土壌の pH を 6.0～6.5 に矯正する。
- (7) 追肥は、萌芽前 (3月中旬) と本葉 2～3 葉期 (6月上旬) に施用 (2年目以降) する。

アスパラガス（ハウス半促成長期どり栽培）

- 1 対象地域 県内全域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 1,500~2,000 株/10a
 4 目標収量 2,000kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型		月 旬											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
		上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
ハウス半促成長期どり栽培	1年目												
	2年目以降												
施肥					●	●	●	●	●	●			
主要作業名	1年目		播種	土壌消毒	定植・雨除け 基肥	追肥	追肥	追肥	追肥	追肥	追肥	収穫終わり	刈り取り
	2年目以降		収穫始め	収穫終わり	培土 立茎・追肥	追肥	追肥	追肥	追肥	追肥	追肥	収穫終わり	刈り取り 排土

6 施肥基準

(kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	4月上旬	15	20	15	有機質肥料、緩効性肥料
追肥	1年目	5月中旬から	2	2	2
		9月中旬まで (計5回)			
1年目計		25	30	25	月1回、高度化成
追肥	2年目以降	4月上旬	3	15	20
		5月中旬から 9月中旬まで (計5回)			
2年目以降の年間計		35	30	35	有機質肥料、緩効性肥料 月1回、高度化成

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する（32~44 ページ、47~51 ページ及び 417~424 ページ参照）。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する（14 ページ参照）。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する（63~78 ページ及び 401~404 ページ参照）。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する（20~24 ページ、52~62 ページ、400~404 ページ及び 409~416 ページ参照）。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する（37~40 ページ及び 450~459 ページ参照）。
- (6) 土壌の pH を 6.0~6.5 に矯正する。
- (7) 基肥または春肥の施用時に、被覆肥料（180 日タイプ）を用い、追肥を全量施用してもよい。

だいこん (ハウス冬春どり栽培)

- 1 対象地域 東葛飾地域、北総地域、東総地域、千葉中央地域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 7,200~8,400 本/10a
 4 目標収量 7,500~8,100kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
ハウス冬春 どり栽培	○—————□											
施肥			●									
主要作業名			基肥	播種					収穫			

6 施肥基準

(kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	10月中旬	8	15	10	高度化成、有機質肥料
追肥		—	—	—	
計		8	15	10	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32~44 ページ、47~51 ページ及び 417~424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63~78 ページ及び 401~404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20~24 ページ、52~62 ページ、400~404 ページ及び 409~416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37~40 ページ及び 450~459 ページ参照)。
- (6) 有機質肥料は2週間以上前に施用する。

だいこん (トンネル春どり栽培)

- 1 対象地域 東葛飾地域、北総地域、東総地域、千葉中央地域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 6,700～7,900 本/10a
 4 目標収量 5,600～6,300kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
トンネル春どり栽培												
施肥			●									
主要作業名			基肥	播種・トンネル	間引き			トンネル除去	収穫			

6 施肥基準

(kg/10a)

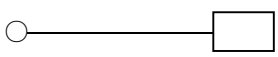
施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	10月上旬 ～1月下旬	8	15	10	高度化成、有機質肥料
追肥		—	—	—	
計		8	15	10	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 有機質肥料は 2 週間以上前に施用する。

だいこん (マルチ春夏どり栽培)

- 1 対象地域 東葛飾地域、北総地域、東総地域、千葉中央地域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 6,000～7,600本/10a
 4 目標収量 5,200～5,900kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
マルチ春夏 どり栽培												
施肥			●									
主要作業名			基肥	マ間 ル引 き・ 播種			収穫					

6 施肥基準

(kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	3月下旬	6	12	6	高度化成、有機質肥料
追肥		—	—	—	
計		6	12	6	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 有機質肥料は 2 週間以上前に施用する。

だいこん (夏播秋どり栽培)

- 1 対象地域 東葛飾地域、北総地域、東総地域、千葉中央地域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 6,700~7,900 本/10a
 4 目標収量 6,000~7,100kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
夏播秋どり栽培												
施肥				●								
主要作業名				基肥	播種		収穫					

6 施肥基準

(kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	7月下旬	3	10	5	低度化成、有機質肥料
追肥		—	—	—	
計		3	10	5	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32~44 ページ、47~51 ページ及び 417~424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63~78 ページ及び 401~404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20~24 ページ、52~62 ページ、400~404 ページ及び 409~416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37~40 ページ及び 450~459 ページ参照)。
- (6) 有機質肥料は 2 週間以上前に施用する。

だいこん (秋播秋冬どり栽培)

- 1 対象地域 東葛飾地域、北総地域、東総地域、千葉中央地域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 6,700~7,900 本/10a
 4 目標収量 6,500~8,100kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
秋播秋冬 どり栽培	○—————□											
施肥					●							
主要作業名					基肥	播種		収穫				

6 施肥基準 (kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	8月下旬	6	10	5	低度化成、有機質肥料
追肥		—	—	—	
計		6	10	5	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32~44 ページ、47~51 ページ及び 417~424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63~78 ページ及び 401~404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20~24 ページ、52~62 ページ、400~404 ページ及び 409~416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37~40 ページ及び 450~459 ページ参照)。
- (6) 有機質肥料は 2 週間以上前に施用する。
- (7) 施用量が多いと葉が過繁茂となり、減収することがある。

にんじん (ハウス春どり栽培)

- 1 対象地域 北総地域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 40,000 本/10a
 4 目標収量 7,000kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ハウス 春どり栽培	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
施肥			●									
主要作業名			基肥	播種・べたがけ	べたがけ除去			収穫				

↑
○ ————— □

6 施肥基準 (kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	12月下旬	15	25	15	高度化成、有機配合、緩効性肥料
追肥		—	—	—	
計		15	25	15	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 土壌 pH を 5.5～6.5 に矯正する。

にんじん (トンネル春夏どり栽培)

- 1 対象地域 東葛飾地域、千葉中央地域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 37,000 本/10a
 4 目標収量 5,000kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
トンネル春夏 どり栽培												
施肥		●										
主要作業名		基肥	播種・トンネル				トンネル除去	収穫				

6 施肥基準 (kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	11月下旬 ～2月下旬	15	25	20	高度化成、有機配合、緩効性肥料
追肥		—	—	—	
計		15	25	20	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 土壌 pH を 5.5～6.5 に矯正する。
- (7) 2月以降の播種では窒素：10kg/10a、りん酸：15 kg/10a、加里：10 kg/10a に減らす。

にんじん (環境保全型トンネル春夏どり栽培—マルチ内施肥)

- 1 対象地域 東葛飾地域、北総地域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 37,000 本/10a
 4 目標収量 4,500kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
トンネル 春夏どり栽培												
施肥		●										
主要作業名	土壌消毒	播種・マルチ・トンネル・基肥	間引き	換気始め	トンネル除去	収穫始め	収穫終わり					

6 施肥基準 (kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	1月下旬	10	13	10	マルチを張るベッド部分のみに高度化成、有機配合または緩効性肥料を施用する。
追肥		—	—	—	
計		10	13	10	

7 施用上の留意事項

- (1) 前作の残存窒素量が多い場合は、施肥窒素量を 6kg/10a 程度まで削減してもよい。
- (2) 土壌 pH を 6.0～6.5 に矯正する。

にんじん (秋冬どり栽培)

- 1 対象地域 北総地域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 35,000 本/10a
 4 目標収量 4,500kg/10a
 5 栽培型と主な作業

	月旬	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5
栽培型		上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
秋冬どり栽培													
施肥			●										
主要作業名			基肥・播種				収穫始め				収穫終わり		

6 施肥基準

(kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	7月下旬	10	25	10	高度化成、有機配合、緩効性肥料
追肥		—	—	—	
計		10	25	10	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 土壌 pH を 5.5～6.5 に矯正する。

ご ぼ う (春播き栽培)

- 1 対 象 地 域 北総地域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽 植 密 度 21,000 株/10a
 4 目 標 収 量 4,200kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月 旬											
	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
春播き栽培												
施 肥	●		●		●							
主要作業名	土壌消毒 基肥・トレンチャ作業	播種	追肥		追肥・中耕				収穫始め			収穫終わり

6 施 肥 基 準 (kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対 応
基 肥	3 月 下 旬	10	10	10	低度化成、有機質肥料
追 肥	5 月 上 旬	5	—	5	NK化成、単肥
	7 月 上 旬	5	—	5	
計		20	10	20	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 局所施肥機を用いて施肥を行う場合には、基肥の施肥量を窒素、りん酸、加里それぞれ 4 kg/10a とする。基肥に 100 日タイプの被覆肥料を用いると、岐根の発生を低く抑えることが出来る。
- (7) 土壌 pH を 5.5～6.5 程度に矯正する。

こ か ぶ (トンネル栽培)

- 1 対象地域 東葛飾地域、北総地域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 52,000本/10a (東葛飾地域)、29,400本/10a (北総地域)
 4 目標収量 6,300kg/10a (東葛飾地域)、3,500kg/10a (北総地域)
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
トンネル栽培												
施肥		●										
主要作業名		基播 肥種・ トンネル			収 穫							

6 施肥基準 (kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	11月中旬	14	17	14	緩効性肥料、有機配合
追肥		—	—	—	
計		14	17	14	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 土壌 pH を 5.5～6.5 に矯正する。

こ か ぶ (春播栽培)

- 1 対象地域 東葛飾地域、北総地域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 42,000本/10a (東葛飾地域)、22,700本/10a (北総地域)
 4 目標収量 5,000kg/10a (東葛飾地域)、2,800kg/10a (北総地域)
 5 栽培型と主な作業

	月旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
栽培型		上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
春播栽培	○—————□												
施肥				●									
主要作業名				基播 肥種 ・ 防虫 ネット		収 穫							

6 施肥基準 (kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	4月上旬	10	14	10	高度化成、有機配合
追肥		—	—	—	
計		10	14	10	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 土壌 pH を 5.5～6.5 に矯正する。

こ か ぶ (夏播栽培)

- 1 対象地域 東葛飾地域、北総地域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 38,000本/10a (東葛飾地域)、22,700本/10a (北総地域)
 4 目標収量 4,000kg/10a (東葛飾地域)、2,800kg/10a (北総地域)
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
夏播栽培	○————□											
施肥						●						
主要作業名						基肥	播種・防虫ネット	収穫				

6 施肥基準 (kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	6月下旬	3	6	6	低度化成、有機配合
追肥		—	—	—	
計		3	6	6	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 土壌 pH を 5.5～6.5 に矯正する。

こ か ぶ (秋播栽培)

- 1 対象地域 東葛飾地域、北総地域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 42,000本/10a (東葛飾地域)、29,400本/10a (北総地域)
 4 目標収量 5,000kg/10a (東葛飾地域)、3,500kg/10a (北総地域)
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
秋播栽培	○—————□											
施肥									●			
主要作業名									基播 肥種・ 防虫ネット		収穫	

6 施肥基準 (kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	9月上旬	10	14	10	高度化成、有機配合
追肥		—	—	—	
計		10	14	10	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 土壌 pH を 5.5～6.5 に矯正する。

さといも (トンネル栽培)

- 1 対象地域 北総地域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 3,700~4,400 本/10a
 4 目標収量 1,500kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
トンネル栽培												
施肥			●			●						
主要作業名			基肥 付け・ トンネル			追肥・ 土寄せ・ トンネル 除去	収穫 始め	収穫 終わり				

6 施肥基準 (kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	3月中旬	6	15	10	緩効性肥料、有機質肥料
追肥	6月中旬	2	—	2	低度化成
計		8	15	12	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32~44 ページ、47~51 ページ及び 417~424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63~78 ページ及び 401~404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20~24 ページ、52~62 ページ、400~404 ページ及び 409~416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37~40 ページ及び 450~459 ページ参照)。
- (6) 石灰や苦土の欠乏を起こしやすいので、土壌 pH の低いほ場では苦土石灰などを施用して土壌 pH を 6.0~6.5 に矯正する。

さ と い も (マルチ早掘り栽培)

- 1 対象地域 北総地域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 3,700~4,400 本/10a
 4 目標収量 2,200kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
マルチ 早掘り栽培	○ ————— □											
施肥			●		●	●						
主要作業名			基植 付け 肥・ マルチ		追 肥・ 土寄せ ・ マルチ 除去	追 肥・ 土寄せ		収 穫 始 め	収 穫 終 わ り			

6 施肥基準

(kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	3月中旬	5	16	14	緩効性肥料、有機質肥料
追肥	5月中旬	4	4	4	低度化成
	6月中旬	4	4	4	低度化成
計		13	24	22	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32~44 ページ、47~51 ページ及び 417~424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63~78 ページ及び 401~404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20~24 ページ、52~62 ページ、400~404 ページ及び 409~416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37~40 ページ及び 450~459 ページ参照)。
- (6) 石灰や苦土の欠乏を起こしやすいので、土壌 pH の低いほ場では苦土石灰などを施用して土壌 pH を 6.0~6.5 に矯正する。
- (7) 1 回目の追肥は、マルチ除去後に培土を兼ねて施用する。

さといも (マルチ普通掘り栽培)

- 1 対象地域 北総地域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 1,500~2,000 本/10a
 4 目標収量 2,700kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
マルチ 普通掘り栽培	○ ————— □											
施肥				●		●	●					
主要作業名				植付け・マルチ 基肥		追肥・土寄せ・マルチ除去	追肥・土寄せ			収穫始め	収穫終わり	

6 施肥基準

(kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対 応
基 肥	4月中旬	5	16	14	緩効性肥料、有機質肥料
追 肥	6月中旬	4	4	4	低度化成
	7月下旬	4	4	4	低度化成
計		13	24	22	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32~44 ページ、47~51 ページ及び 417~424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63~78 ページ及び 401~404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20~24 ページ、52~62 ページ、400~404 ページ及び 409~416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37~40 ページ及び 450~459 ページ参照)。
- (6) 石灰や苦土の欠乏を起こしやすいので、土壌 pH の低いほ場では苦土石灰などを施用して土壌 pH を 6.0~6.5 に矯正する。
- (7) 1 回目の追肥は、マルチ除去後に培土を兼ねて施用する。

やまといも（露地栽培）

- 1 対象地域 北総地域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 6,000～7,100 本/10a
 4 目標収量 2,000kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
露地栽培												
施肥						●	●	●				
主要作業名			収穫終わり	植付け		基肥・土寄せ	追肥	追肥			収穫始め	

6 施肥基準 (kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	6月上旬	15	15	15	緩効性肥料
追肥	7月上旬	3	—	3	NK化成
	8月上旬	3	—	3	NK化成
計		21	15	21	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する（32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照）。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する（14 ページ参照）。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する（63～78 ページ及び 401～404 ページ参照）。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する（20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照）。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する（37～40 ページ及び 450～459 ページ参照）。
- (6) 土壌 pH を 5.5～6.5 に矯正する。
- (7) 土壌乾燥時及び追肥施用後は、灌水を行う。

しょうが (根しょうが栽培)

- 1 対象地域 北総地域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 4,700~5,400 本/10a
 4 目標収量 2,000kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
根しょうが栽培	○—————□											
施肥				●			●	●				
主要作業名				基植 付け 肥・ マルチ			マルチ 除去 追肥・ 培土	追肥・ 培土			収 穫	

6 施肥基準 (kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対 応
基 肥	4 月 中 旬	6	22	15	緩効性肥料、有機質肥料
追 肥	7 月 上 旬	5	—	5	NK化成
	8 月 中 旬	5	—	5	NK化成
計		16	22	25	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32~44 ページ、47~51 ページ及び 417~424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63~78 ページ及び 401~404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20~24 ページ、52~62 ページ、400~404 ページ及び 409~416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37~40 ページ及び 450~459 ページ参照)。
- (6) 土壌 pH を 5.5~6.0 に矯正する。
- (7) 加里の要求量が多いので、堆肥を施用しない場合は加里施用量を 5kg/10a 程度増やす。

し ょ う が (大しょうがハウス栽培)

- 1 対 象 地 域 北総地域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽 植 密 度 5,000~6,000 本/10a
 4 目 標 収 量 6,000kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
大しょうが ハウス栽培												
施 肥		●			●	●	●	●	●	●		
主要作業名		基 肥	植 付 け		追 肥 ・ 培 土	追 肥 ・ 培 土	追 肥 ・ 培 土	追 肥 ・ 培 土	追 肥 ・ 培 土	追 肥 ・ 培 土	追 肥 ・ 培 土	収 穫 終 わ り

6 施 肥 基 準

(kg/10a)

施 用 時 期		窒素	りん酸	加里	対 応
基 肥	2 月 下 旬	12	20	12	高度化成、緩効性肥料、有機配合
追 肥	5 月中 旬 ～10 月中 旬 (1か月おきに6回)	3	3 × 6 回	3	高度化成
計		30	38	30	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 土壌 pH を 5.5～6.0 に矯正する。
- (7) 生育初期は吸肥力が弱いので、追肥に重点を置く。

しょうが (葉しょうが栽培)

- 1 対象地域 北総地域
 2 土 壌 火山灰土
 3 栽植密度 植付け量 3,500~5,000kg/10a
 4 目標収量 6,000kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
葉しょうが栽培	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
施肥			●									
主要作業名			基植付け・トンネル肥	遮光資材被覆	収穫始め		収穫終わり					

6 施肥基準 (kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対応
基肥	3月上旬 ～下旬	15	15	15	高度化成、緩効性肥料、有機質肥料
追肥		—	—	—	
計		15	15	15	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32~44 ページ、47~51 ページ及び 417~424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63~78 ページ及び 401~404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20~24 ページ、52~62 ページ、400~404 ページ及び 409~416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37~40 ページ及び 450~459 ページ参照)。
- (6) 土壌 pH を 5.5~6.0 に矯正する。
- (7) 5~6 葉期で収穫する場合は、施肥量を 1/3 程度に減らす。

れんこん (普通栽培)

- 1 対象地域 九十九里地域、北総地域、千葉中央地域
 2 土 壌 海成砂質土、第三系粘質土
 3 栽植密度 250～300 本/10a
 4 目標収量 2,000 kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
普通栽培	◎… ◎ ————— 											
施肥			●	●	● ●							●
主要作業名	植付け		芽追廻し肥始め	追肥	芽追廻し終わり	追肥	追肥		収穫始め			収穫終わり

6 施肥基準 (kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対 応
基 肥	3 月 中 旬	12	25	21	単肥、緩効性肥料、有機質肥料
追 肥	6 月 中 旬	3.5	2	2.5	緩効性肥料
	7 月 上 旬	3.5	2	2.5	緩効性肥料
	8 月 上 旬	3.5	2	2.5	緩効性肥料
	8 月 下 旬	3.5	2	2.5	緩効性肥料
計		26	33	31	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 土壌 pH を 5.5～6.5 に矯正する。
- (7) 基肥には、なたね油かす、石灰窒素、溶りん、けい酸加里を用い、植付けの 1 か月以上前に施用する。
- (8) 基肥の緩効性肥料は植付けの 7 日前までに施用すればよい。
- (9) 追肥は葉焼けの少ない大粒のものを用いる。
- (10) 2 回目の追肥は、根の肥大を確認してから施用する。

れんこん (ハウス栽培)

- 1 対象地域 北総地域
 2 土 壌 河成壤質土
 3 栽植密度 600～700 本/10a
 4 目標収量 1,600 kg/10a
 5 栽培型と主な作業

栽培型	月旬											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
ハウス栽培												
施肥		●		●								
主要作業名		播基 種肥	植 付け	追 肥	収 穫 始 め			収 穫 終 わ り				

6 施肥基準

(kg/10a)

施用時期		窒素	りん酸	加里	対 応
基 肥	2 月 下 旬	20	30	20	単肥、緩効性肥料、有機質肥料
追 肥	4 月 中 旬	5	—	—	緩効性肥料
計		25	30	20	

7 施用上の留意事項

- (1) 施肥の環境負荷を考慮する (32～44 ページ、47～51 ページ及び 417～424 ページ参照)。
- (2) 土壌診断や施用資材の検討に当たって各種パソコンシステムを活用する (14 ページ参照)。
- (3) 施肥量の算定に当たっては有機質資材の肥料成分を考慮する (63～78 ページ及び 401～404 ページ参照)。
- (4) 土壌診断に基づいて土壌の改善対策を実施する (20～24 ページ、52～62 ページ、400～404 ページ及び 409～416 ページ参照)。
- (5) 資材の施用に当たっては土壌への重金属蓄積等に注意する (37～40 ページ及び 450～459 ページ参照)。
- (6) 土壌の pH を 5.5～6.5 に矯正する。
- (7) 基肥には、なたね油かす、石灰窒素、溶りん、けい酸加里を用い、植付けの 1 か月以上前に施用する。
- (8) 基肥の緩効性肥料は植付けの 7 日前までに施用すればよい。
- (9) 追肥は葉焼けの少ない大粒のものを用いる。